

・ 27年度の「改善プラン」の検証（取り組みにおける成果と課題）

前時の内容や、1時間の内容を振り返らせる時間をとることで、知識の定着を図ってきた。また、ICTを活用し資料から社会的事象を読み取ったり、歴史的事実についての理解を深める活動を意識的に採り入れてきた。経年比較をすると、標準スコアは2年生で1.2ポイント上昇し、3年生では0.7ポイント上昇した。出題内容の7つのカテゴリーのうち2年生では4つが目標値を上回り、3年生では2つが目標値を上回った。しかし、どの学年にも共通して基礎的な問題で目標値を下回っている。特に、1年生では全てのカテゴリーで目標値を下回った。2年生では、多くのカテゴリーで目標値を上回ったものの、「飛鳥時代～平安時代」「中世の日本」では正答率が目標値の10ポイントほど下回っている。3年生では、「日本の諸地域（産業）」や、「江戸時代」での正答率の低さが目立った。

・ 今回の調査結果

観 点	分 析	課 題
1 関心・意欲・態度	2・3年生では目標値は上回ることができたが、1年生では目標値を下回った。他の観点に関連した問題も多く、他の観点の低さが本観点にも影響していると考えられる。	他の観点を改善していくためにも、授業の導入や教材、発問の工夫をし、関心・意欲を引き出ししていくことが必要である。
2 思考・判断・表現	2・3年生では目標値を超えているが、区の平均が前年度より上昇しているのに対して本校では下降している。知識・理解の低さから、事実の背景を追究し判断することが難しい生徒が多いと考えられる。	基礎的・基本的な語句の理解、因果関係の理解を深めることが必要である。1時間ごと、単元ごとに、学習した基礎的・基本的な語句を活用して自分の言葉で表現する機会を増やす。
3 資料活用の技能	3年生では前年度より減少したものの、目標値を超えている。一方、1・2年生では、目標値は下回ったが前年度から改善が見られる。	地理的な事象も、歴史的な事実もその位置との関連で理解が不足している。授業中に、その都度地図帳などで位置を確認する時間を設けるなどしていく必要がある。
4 知識・理解	どの学年でも目標値を下回り、区や全国に比べ正答率が低かった。用語の意味や用語同士のつながりを理解できている生徒と、そうでない生徒の二極化が進んでいると考えられる。	基礎的・基本的な事項の定着が課題。自分で用語の意味を説明したり、用語同士のつながりをまとめる作業を採り入れ、反復学習や小テスト等で繰り返し実施していくなど、継続的な指導が必要。

・ 28年度の授業改善策

（第1学年）カテゴリー別正答率の平均正答率において、目標値の平均正答率をいずれも下回っている。全体的に社会的事象についての知識・理解に課題がある。地理的分野では、特に我が国の農業・水産業・工業生産に課題がある。観点別においても、全体的に平均正答率が目標値よりも低く推移している。授業の導入時に前時の復習を行い、復習確認テストなどを実施し、基礎的な学力の定着を図る。

（第2学年）平均正答率が目標値を下回る。顕著な部分は歴史的分野の「古代までの日本」「中世の日本」に課題がある。いずれも社会的事象についての知識・理解を問うもので基本的な知識・理解が不足している。歴史的分野では各時代の特色や流れ、人物を中心とした知識・理解を定着させていく必要がある。ICTを活用し興味関心をもたせつつ、歴史の流れと社会的事象についての知識・理解を整理して基本的な知識の定着を図る。

（第3学年）3年間の学習内容を確実に身につけさせるため、新たに学ぶ語句については既習内容とのつながりを踏まえて理解させ、反復学習に取り組みさせる。また、学習した内容を踏まえて自分の意見や考えをまとめさせる時間をとり、意見交換を促すなど知識の定着を図るとともに、他の意見も採り入れながら深く考える力を養う。